

秋空にこだまする歓喜の声

— 竜丘市民運動会 —



応援大賞となった駄科分館

『天高く馬肥ゆる秋』の言葉が似合う晴天の下、十月十日体育の日に、竜丘市民運動会が約千五百名の市民の皆さんの参加を得て、竜丘小学校校庭で盛大に行なわれました。

開催を告げる朝の打ち上げ花火、長野原金山神社から竜丘内を一周した小学生の聖火ランナーが、会場に到着するころには、気分はいやがうえにも盛り上がっています。

最初の分館対抗種目はメドレーリレー、百四十名の選手皆さんの熱戦を繰りひろげ、一位は上川路分館しかし、この時誰一人として、この結果が今後の展開を暗示しているとは、思わなかつたでしょう。

今年には時間に余裕を持って行なうよう、種目を若干減らしましたが、内容は工夫されています。人呼んで、日頃の運動不足と翌日の筋肉痛のことも忘れ、分館の名譽を背負い、大歓声の中で熱戦が繰り広げられました。種目も工夫され、応援大賞も設けられた今年の運動会。数々の感動と歓喜のドラマが生まれました。



で「リニューアル運動会」。恒例の年次リレーを男女混合のオールスターリレーとし、各分館で、走る順番をそれぞれ決めたことで、順位が走者ごとにかわり、分館の作戦が勝敗を分けました。大福ひろいは化粧直しとなり、一位から三位に入った人の中で、粉まみれの顔の写真を撮り、コンテストを行ない好評でした。消防団の意気はトラックでのリレー競技で、第一走者は普段着から始まり、走者ごとに消防団員の姿に着替えていき、最終走者は耐火服に筒先とホースを持っての重装備。足が速くても着替えがうまくいかない人もいて、日頃の活動の成果が表われていました。

競技だけではなく、今年「応援大賞」が新設されました。これは各分館の応援を来賓の皆さんに審査していただき、投票によって



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,815人
男子 3,368人
女子 3,447人
世帯数 2,028戸
(9年10月末現在)

決めるものです。このためか応援も工夫されており、鳴り物やテープを使っている掛け声と踊りで賑やかでした。

さて、今年は何と云っても、上川路分館のおよそ五十年ぶりといわれる快挙です。展開は序盤では二位にはなりましたが、前半をトップで折り返し、他分館が伸び悩む中で確実に得点し、終盤の長野原分館の追い込みをかわし、堂々の優勝です。慰労会ではおいしいお酒が飲めたことでしょうか。

この運動会に向けて、準備してくださった実行委員や各種団体の皆さん、大変にご苦労さまでした。運営全般では、種目により競技開始時間が延びるなどしましたが、無事に終えることができました。毎年、聞こえにくいとの声もある放送

も、今年はスピーカーの位置を変え明瞭な放送ができました。ただし一部の競技に於いて、再試合となったところが、抗議のため一時中断状態になったのは残念でした。

各分館の体育部員の皆さんの努力により、これだけの地域の人々の参加を得ることができました。

竜丘市民がこうして一同に会するのは、運動会しかありません。この運動会で培った分館の団結をこれからの様々な活動に、つなげていきたいものです。結果は次のとおりです。総合成績・一位上川路分館／二位長野原分館／三位桐林分館／四位時又分館／五位駄科分館／応援大賞駄科分館。



小木曾和夫さん 小林 愛美さん

フォトコンテスト 見事グランプリ

初めて手話教室に行った時は、ほとんど手話が覚えられなかった。でも何回も先生に教えてもらってだんだん手話や耳の聞こえない人の気持ちがよくなっていった。でも行くようになってきた。でも行く

親子手話教室に参加して

時又 岩崎 光男



親子のふれあい福祉のことを知るきっかけになれば、と企画された手話教室。十一月で全十二講座を終了しました。参加者は何を感じ、何を学んだのでしょうか。

かかっているうちに全々覚えられなかった手話が少なくなるようになってきた。でも一つ一つ手話を覚えたりと楽しくて身近で使いたくなり。先生にゴリラ

自分で手話をやったりして、一人だけでやっても手話を覚えてきた。だから大人になってからもわすれないくらいがんばって手話をやりたい。もっと手話教室が続けばいいな

な歌や話の手話でできて楽しくなる。またぜひ僕が手話で話したい。

一人ひとりの意識から

市民大学講座第二講開講

「ゴミ問題」「リサイクル」などの言葉は、毎日どこかで目や耳にします。身近そうですが、なかなか取組みにくいことだと思われま

二十年以上前から、これらの研究を地道に行ない、プラスチック廃材や廃木材から合成木(板材など)を開発・製品化しました。

それは木ではなく、合成のプラスチックだろうと思われませんが、実際に見せてもらいました。参加者も少々疑いの目で、手に取り、固さや重さを確かめながら「木の香りもするし、プラスチックでもない不思議だ」

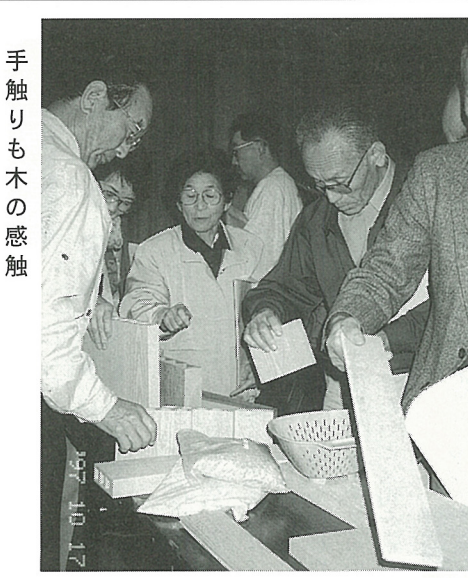
海外や国内の環境庁・地方自治体と共同で、リサイクルプラントの建設や、各地方の地場産業として、採算のことも考え取り組んでいる事例も発表されました。

環境問題について、総合的に取り組んでいるアイン総合研究所の顧問である今西勝美さんに来ていただきま

〇国内で、年間約二十万トンも出る農業用プラスチックフィルム(ビニールハウスのシートなど)のリサイクル。

〇自動車のプラスチック製部品のリサイクル。

〇ペットボトルや、ポリエチレンボトルの乾式(水を一切使用しない)洗浄方法。



手触りも木の感触

ヤブ叢

最近便利な世の中になったものどつくづく思う。リニア中央新幹線の早期建設促進大会が山梨県都留市で開かれた記事を見た。先日は長野まで新幹線が開通し、その沿線の経済・交通事情がずいぶん変わって来たようだ。まさに「高速時代」となってきた。

長野まで新幹線が開通しても、飯田あたりの人々の生活は、あまり変わらないけれど、近くを通る予定のリニアが出来たら、いったいどの様な生活が待っているのだろうか。今日は大阪、明日は東京まで……。なんという会話をする様になるのかもしれない。

遠くまで早く行けるけれど、その間に通り過ぎていく街や人々は、気にも止まらない。

毎日、通勤の車ですれ違う沢山の人も、いつも知らんぷりで通り過ぎる。毎日すれ違う人々さえ、どんな声をしているのかも知らない。車に乗れなかった頃は「おはようございます」とあいさつして、その人との心の交流があったことを思い出す。高速で移動できるようになればなる程、人の心の中も、さっと通り過ぎてしまつて、人の中に立ち止まる事もなくなっていく。

リニアが完成したら、今よりも、もっと広い範囲の人々と交流が出来るだろう。その分、自分の足元が見えなくなりそう、忙しい日々が待っているのかも。

たまには自分の足で、自分の速度でまちを歩いてみたいものだ。車で通り過ぎるだけでは見えなかったものが見えてくる、人の表情、土のにおい。高速時代の便利さと引き換えに失っているものは何だろうか。

賑わった文化祭

料理文化交流会、古墳見学会も

小春日和の続く十一月八・九日の両日、「平成九年度竜丘地区文化祭」が竜丘小学校において、盛大に行なわれました。今年も、料理文化交流会、古墳見学会、絵手紙教室など豊富な内容で好評でした。

八日の正午から開会セレモニーが体育館で行なわれ、テープカットで文化祭の幕明けとなりました。時又灯ろう流し写真コンテストの入賞者の表彰式も同時に行なわれました。

スポーツ祭で盛り上がったのは、小学生のキックベースボール大会。八日一時から校庭で、低学年十チーム、



料理文化交流会

両日行なわれました。中国タイ、フィリピンの皆さんがお国自慢の料理を婦人会の皆さんに指導しながら、和気あいあいと調理しました。喫茶コーナーが設けられ、その場で味わうことができました。中国料理は「冷菜とぎょうざ」タイ料理は八日「トムヤンクン」九日は魚の胃袋を使った「ガポパン」フィリピン料理は「ニラガ」。「初めての味だけおいしい」と評判でした。古墳を考える会の皆さんが作られたこきびもちをお土産に持って帰られる姿も多く見られました。

体育館の郵便局のコーナーでは、九日の十一時と一時の二回、元竜丘郵便局長の今村東一郎さんの指導で、絵手紙教室が行なわれました。季節感あふれる柿、南天、みかんの絵をハガキに描き、素材ではのぼりとした温かみのある手作り絵手紙を完成させていました。

保育園児からお年寄りまで、幅広い年齢の方が参加されどがそれにあたります。しかし撰氏八百五十度以上の高温で焼却することにより、ダイオキシンの発生を防げることから、厚生省では「大型ごみ焼却場」を全国につくと発表しました。ところが対策が完了するまでに二十年を要し、税金から投入する費用も莫大とあって、有効な手段とはなっていない。

こんなに怖い ダイオキシン

近頃、メディアを通じて「ダイオキシン」という言葉をよく耳にするようになった。問題のダイオキシンとは、通常、自然界には存在しません。塩素を含むゴミの燃焼過程で副産物として生成されます。その測定値は、一兆分の一という小さな単位で表わされ、驚くことに我が国の測定値は、各国に比べ高水準となっています。

生体に対する影響としては、一般に、発がん性、免疫毒性、生殖毒性などがあげられます。またそれは、汚染された空気を吸うだけ

でもポリエチレン、ポリ塩化ビニールなどは、価格も安いために幅広い用途に利用されています。例えばスーパーでお馴染みの、トレー、ラップ、買い物袋、ザルなどが必要で



絵手紙を学ぶ大人と子ども

ていました。「このころを伝える絵手紙」一枚のハガキもちょっと手を加えるだけで趣が異なります。自分だけのオリジナリティを満足するに手にする姿が見られました。

体育館や校舎内には、分館、グループ、機関、団体の皆さんの力作が並んでいました。日頃の活動の様子が伺える作品が所狭しと飾られ、会場内では感嘆の声が聞かれました。

内容一新、竜丘地区市政懇談会開催される

十一月七日、竜丘公民館を会場に市政懇談会が開催されました。市政懇談会は地区の住民と行政とが地区の問題や課題、事業などについて懇談するというもの。ほぼ毎年開催されています。過去の例では地区役員からの陳情に対して、市長が答弁するといった形式がほとんどでした。しかし、今年度はいささか趣向を変えて実施されました。

当日は地区から約四十名、市からは市長と部長ら十二名が出席し、午後六時に開会しました。例年では自治会長のあいさつに続き、市長のあいさつ、地区の諸問題についての陳情と続くところですが、今年度は冒頭から多くの時間を割いて竜丘各地区の活動状況が紹介されました。特に桐林壮年会と鈴岡太鼓については、桐林壮年会代表の森山和幸さんと、鈴岡太鼓代表の塩澤隆さんが、それぞれの活動を発表しました。市長も竜丘地区住民のまちづくりに対する熱意を十分感じとったことでしょう。

この後、自治会役員が、まちづくり、治水関連、下水、天竜橋、そして公民館建設についての地区の状況を説明し、市側の積極的な対応を求め、これらについて市長が答弁をしました。市長は、竜丘地区は人口も増え、特に若者も多く、

竜丘保育園 おもしろおかしい三連発!!

★ただ今子供の間で大はやり
トイレから子供達の大きな歌声が聞こえてきます。トイレって気持ちがいいラックスするのかな? Vの6の「輪になっておどろろ」とか「小林のりんご」

★はやお帰りのヤツター!
「えんこ先生、ご飯食べたら帰る」とぐざり泣きのY君(えい子先生って言えなくてえんこ先生って言うんだよ)

どうやらお昼寝がイヤみたい「明日ねえ、Y君おれいよ」とい



元気のある地区であるとの認識を示し、財政難の時代ではあるが、知恵を絞って公民館をはじめとする各事業を積極的に進めていくとの考えを明らかにしました。この後、懇親会を行い和やかな内に幕を閉じました。

工事中につき御協力を 下水道工事始まる

最近、竜丘内を自動車で移動していると、ところどころで通行止めの看板が目につくようになりました。そう、下水道工事がいよいよ始まったのです。既に過去何回か、この館報で取り上げてきましたが、特定環境保全公共下水道の管渠築造工事です。

現在、長野原地区で六工区、時又地区で四工区、計十工区で工事が進行中です。終末処理場は治水対策事業の盛り土終了後の建設になります。その稼働のス

ケジュールにあわせて管路が伸びてゆく訳です。管路の工事は主に人抗、いわゆるマンホールの設置と硬質塩ビパイプの付設です。工事現場をのぞいて見ると深さが二メートルから

五メートルくらい穴が掘られ、土砂の崩落による事故防止のため、両側には鉄製矢板が使用され、マンホールはコンクリート製品の組立て式でプレハブ化されています。また目に止まらない所では、管の勾配の管理にレーザー光線を使っています。マンホールの中に発振機をセットし、光りをたよりに掘削と管の付設をしてゆきます。

工事期間中は回り道など何かと不便ですが、ご協力をお願いします。

